

令和2年度第3回中央区清掃・リサイクル推進協議会 議事録

開催日時 場所	令和2年9月18日(金) 午後1時30分 東京スクエアガーデン6階 環境情報センター
出席者の氏名	<p>○出席委員 朝倉座長、小野田座長代理、岩田委員、興石委員、村田委員、境委員、佐々木委員、矢吹委員、立岩委員、川名委員、守本委員</p> <p>○区側委員 望月委員(環境土木部長)、浅沼委員(企画部長)</p> <p>○欠席委員 前田委員</p>
	<p>(環境政策課) 三留課長 (環境推進課) 武藤課長 (中央清掃事務所) 石井所長、藤原清掃事業係長、相崎作業係長、有原排出指導係長、清掃事業係榎戸主事、清掃事業係星山主事 (有循環資源・環境ビジョン研究所) 鈴木</p>
配布資料	<p>(事前配布資料)</p> <p>資料1 第2回協議会での主な指摘事項まとめ 資料2 中央区一般廃棄物処理基本計画(素案) 資料3 中央区一般廃棄物処理基本計画 改定のポイント 資料4 中央区一般廃棄物処理基本計画 施策の新旧対照表 資料5 中央区一般廃棄物処理基本計画の改定に関する意見書</p>
議事の概要	<p>1 開 会 2 議 題 (1) 中央区一般廃棄物処理基本計画の改定について (2) その他 3 閉 会</p>
議事の経過	別紙のとおり

協議会の経過

1 開会

事務局（中央清掃事務所 藤原清掃事業係長）より、開会のあいさつを行った。

2 議題

(1) 中央区一般廃棄物処理基本計画の改定について

○委員

資料2の1. 2にある「あわせ産業廃棄物」とは何か。

●区

ごみの排出日量が 50 kg未満の事業所から排出されるごみについては区が収集しており、その中に少量混ざっている産業廃棄物については、区で収集できる。産業物廃棄物の収集は都の管轄であり、許可業者が回収しているが、それとは分けている。一般廃棄物と合わせるという意味で区の収集として「あわせ産業廃棄物」という名前にしている。

○委員

資料2の3. 3国際的な動向で SDGs にも対策しているとのことだが、これにはいろいろなゴールを設定している。せっかく取り入れたなら、一般廃棄物処理基本計画のそれぞれの対策が、どのゴールに該当するか示したほうが分かりやすい。

●区

了解した。その方向で検討する。

○委員

ごみの減量目標を何%と提示しているが、目標と人口、テレワーク等による昼間人口の減少、事業系ごみであれば事業者数との関連が分からない。何をすればごみが減量ができるのか、そのような相関が示されておらず、個別の現状との関連性をもうはっきり記述した方が良い。

●区

人口や事業者数など個別の数値とごみ量の相関関係は、分かりやすく掲載できるように検討する。

○副座長

表現の統一を図った方が良い。区収集ごみ量や収集量とまちまちで統計数字間の関係が分かりにくい。

●区

了解した。同内容のものについては、表記の統一を図る。

○座長

全般的なデザインの体裁は現行計画のようになるのか、それとも今回、素案として提示されたものになるのか。

●区

現行計画は文字が小さいため、今回の計画改定では、見やすくするため、12ポイントに上げている。

○委員

資料2の図表21区のごみ・資源の流れが、ラインがどこからどこへ行くのかが分かりにくい。

●区

了解した。もっと見やすいものに検討する。

○副座長

資料2の8.2(2)事業系ごみの年間排出量および8.3目標を達成した場合の年間ごみ量について、令和元年度を基準にするのは異論ないが、この削減率はどのぐらい実現可能性があるのかと、令和元年度にこの数値になった経年の変化が気になる。令和元年度を出発点にするよりもう少し前の数字もあった方が良いのではないか。また、中間目標および目標年の削減率等はどう設定されたのか。

●区

資料編の図表70および71において品目ごとのごみ削減目標と対策を行わない場合の目標年のごみ量予測を設定し、図表72において対策を行った場合のごみ量および削減率を掲載している。この目標年(令和12年)削減率と基準年(令和元年度)との比較で中間年の(令和7年度)削減を算出した。

○座長

ごみの減量目標を達成するために、具体的に個々の重点事業の結果がどれだけ減量に結び付いたのか、結果として分かりやすくすることが必要だと思う。

●区

了解した。

○委員

生ごみ処理機購入の助成を実施している自治体もあるが、これや生ごみ削減への周知活動などにより各家庭で1日当たり100グラム削減できれば、17万人を掛けて計算すると、ある程度の数字が見えてくるのではないか。そのような計画はあるのか。

●区

現在、生ごみ処理機購入への助成は考えていない。区では学校給食などで残ったものを再利用している。以前は、それを肥料化し、それで農作物をまた給食で利用していたが、学校ごとの個別献立となったため、現在はメタン化している。

○委員

生ごみ処理機の購入助成を行う際の経費と、その結果、生ごみが減少したことで生じた区の処理経費を検討すればよいのでは。

●区

今後の検討課題とする。

○委員

学校給食の堆肥化による農作物の再利用は、子どもたちが資源循環を理解するのに大きく役立っていた。再開は考えていないのか。

●区

そのようなご要望があった旨、関係部署に伝える。

○委員

今後も区の人口は増加していくが、中央清掃工場だけで処理可能か。

●区

本区は人口が現在17万人を超えているが、中央清掃工場の能力的には問題ない。

○委員

ごみの分別状態を見ると正しく分別されているものがある一方、いい加減なものもかなりある。再資源化にはコストもかかるので、廃棄物はすべて焼却した方が良いのでは。

●区

最終処分場については、あと50年で満杯になると言われており、焼却灰にしたとしても限りがあるため、資源化によって埋め立て量の減量化を図っているところである。

○委員

各区のごみ量等のデータは、比較できるような形になっているのか。

●区

清掃一部事務組合で各区のごみ量等の取りまとめを行っている。

○委員

本区は、事業所が多く、買い物客等も多い。これらから排出されるごみ量は、計画にどう反映されているのか。

●区

家庭から排出され、区が収集した区収集ごみ量と、事業所から排出され、収集業者が収集して清掃工場に持ち込まれる持ち込みごみ量を合わせて区のごみ量として集計している。区民一人当たりのごみ量は、家庭から排出された区収集ごみ量を基に算出している。

○座長

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、リモートワークの増加等による昼間人口の減少やテイクアウトの増加による容器の排出増など様々な影響が出ている。

今後、労働形態の変化に伴う昼間人口の増減やごみの増減がどう推移していくのかきちんと把握していく必要がある。

●区

リモートワークが進み家庭で働くのか、オフィスも地方に移転してしまうのか、ある程度元に戻るのか、経済の回復状況と併せて2～3年様子を見ざるを得ないと思っている。

○座長

今後は、オフィスや人の地方移転など、より大きな動きも見極めながら計画を考えていく必要がある。

○副座長

先の生ごみの話だが、区としてはごみ減量のため、生ごみを減らしたいので、重点の中に入っていると思うが、であれば家庭の減量施策をどのように推進していくのかが重要だ。フードドライブ事業は、そのための事業ではないのか、これにより生ごみの減量を図ると説明した方が分かりやすい。

また、ごみの焼却の問題については、資源の再資源化にコストがかかるのは事実だが、新たな最終処分場を確保する社会的コストも大きいので、ごみ減量のためにリサイクル

の推進は重要だ。だが、産業廃棄物としてそのまま埋め立てられているプラスチックも一定量あり、これらについては、そのまま埋め立てるより焼却してエネルギーとして回収すべきだ。最終処分場の現状を共有したうえで、そこは切り分けて議論していった方が良い。

●区

検討する。

(2) その他

○座長

区民からすれば、回収場所を増やした方が利便性が高まり、回収量も増加する。

●区

検討する。

○委員

「目標達成に向けての取り組み」に集団回収の促進が挙げられている。集団回収は市況の悪化もあり、撤退する回収業者もある中、東京都の地域環境力活性化事業による助成対象にもなった。その活用も検討するなど、充実を図るべきでは。

●区

本区では、回収業者の撤退など逼迫した状況にはないが、状況の変化に応じて検討する。

○委員

ごみの減量目標など何をしたら、これだけの減量になるなど達成感があり、分かりやすい表記を希望する。

●区

表記について検討する。

3 閉会

事務局（中央清掃事務所 藤原清掃事業係長）より、今後の予定を説明した。